

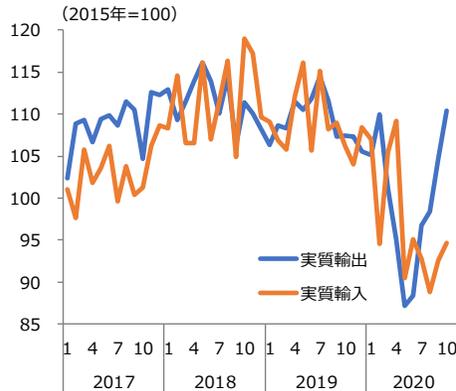
日本

貿易統計 (2020年10月)

輸出はコロナ前まで回復、感染拡大による需要縮小がリスク

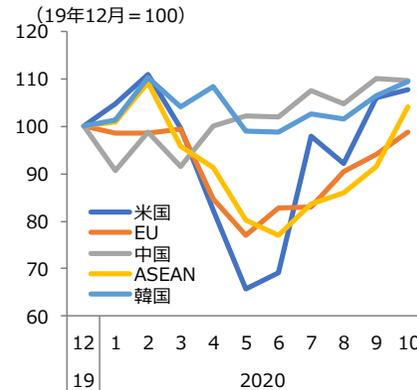
政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 実質輸出入



注：当社による季節調整値。20年1月以前のEUの値は、EUから英国を除いた値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

2 実質輸出：国別

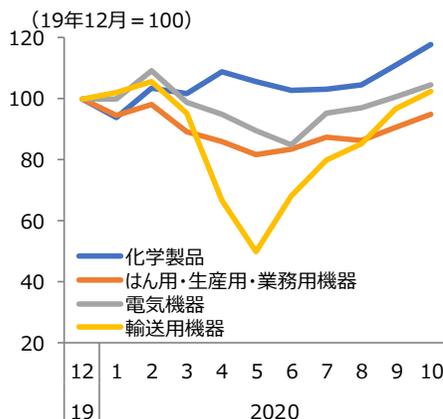


評価ポイント

今回の結果

- 20年10月の実質輸出（当社による季節調整値）は、前月比+5.4%、実質輸入は、同+2.2%（図表1）。貿易収支（季節調整値）は、+3,143億円。輸出は海外経済の回復により、コロナ前（19年12月）の水準まで回復した。
- 実質輸出（当社による季節調整値）を国・地域別で見ると、幅広い国・地域で増加した（図表2）。特に、4月・5月に大幅に落ち込んだ、米国（前月比+1.7%）・EU（同+5.0%）・ASEAN（同+13.7%）向けがコロナ前と同程度の水準まで回復。これらの国・地域では経済活動の回復に合わせ、輸出の持ち直しが継続している。一方、早期の経済回復を実現した中国（同▲0.4%）向けは微減も、コロナ前を上回る水準を維持しており、輸出の回復を牽引している。
- 品目別でも、幅広い財で増加、コロナ前の水準まで回復した（図表3）。輸送用機器は米国向け（前月比+3.1%、2カ月連続の増加）、ASEAN向け（同+26.6%、5カ月連続の増加）を中心に増加し、コロナ前の水準まで持ち直した。

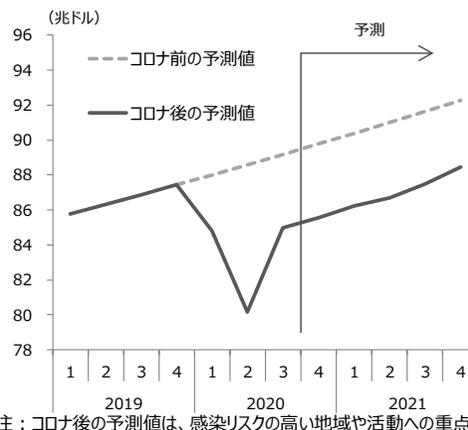
3 実質輸出：品目別



注：当社による季節調整値。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

4 実質GDP（世界計、MRI推計）



注：コロナ後の予測値は、感染リスクの高い地域や活動への重点規制と緩和を繰り返しながら、22年にかけて一定の防疫措置を継続する経済を前提としたシナリオ。

出所：三菱総合研究所

基調判断と今後の流れ

- 輸出は、国内外の経済活動再開により持ち直しつつある。
- 先行きは、緩やかな回復を予想する。輸出は、海外経済の回復によりコロナ前の水準まで持ち直したが、今後は回復スピードが鈍化するとみる。足元では、欧米を中心に感染が再拡大し、欧米の一部の国・地域では地域や業種を限定した防疫措置の再強化が実施されており、海外経済の回復スピードの鈍化が予想される。
- 当社の予測では、各国・地域のGDPがコロナ前の水準を回復する時期は、中国はすでに20年4-6月期に回復しているものの、米国では22年後半、欧州では23年以降を見込んでいる（図表4）。感染拡大が継続する中で、海外経済活動の本格的な回復には時間を要する。
- 下振れリスク要因は、国内外での防疫措置の再強化だ。国内でも感染再拡大を受け、自治体による自粛要請等がではじめている。防疫措置の再強化が多くの国・地域で拡大した場合、海外需要の縮小により、輸出の回復スピードが鈍化する可能性がある。